

FIELDWORK

学外研修 | 史学科

「現場に行く、実物を見る」を重視し、
自らの経験をもとに“考える歴史学”を学びます。
先人が遺した情報を本物の史料から発見することで、
日本史・世界史を紐解く喜びや感動が深まります。

PICKUP:01

京都ギリシアローマ美術館

美術品も歴史資料です。
制作時の時代背景などを解説します。

「実物」の史料をもとに

歴史を紐解く



PROFESSOR'S VOICE

西洋古代の文物に特化した、 全国的にも稀な美術館への訪問

足立ゼミでは、毎年秋に京都ギリシアローマ美術館を訪ねています。西洋古代の文物に触れることのできる場所は全国的にも限られており、学生にとって貴重な学びの機会となるため、京都への遠征が習慣化しました。館主の蜷川明さんが、戦後、それまでの日本にはなかった西洋古代に特化した美術館を創設しようと思い立ったことが始まりで、欧米の美術館と比べても遜色のない陶器や彫像、石

棺などが多数集められており、特に歴史の知識がない人でも驚かされるほどの見事さです。本学の学生をいつも温かく迎えていただき、美術品の鑑賞後は最上階のテラスでお茶と京都五山の眺望も楽しめます。



専門分野／西洋古代史
足立 広明 教授

STUDENT'S VOICE

美術品の鑑賞を通じ、古代の空気を肌で感じる

私は古代ギリシアやローマの歴史に関心が強く、京都ギリシアローマ美術館への訪問を楽しみにしていました。庭園を抜け、玄関ホールに足を踏み入れた瞬間、大理石彫刻やモザイク画がお目見え。ガラスケースが設けられていない作品を間近で鑑賞し、古代の空気が直に伝わってくる感覚を味わいました。また、足立先生の解説を通じ、ギリシア陶器に描かれた神話や祭祀の場面は単なる装飾では

なく、当時の社会や文化、思想を知る手がかりになると学びました。美術品を自分の目で見ることで、その背景にある文脈や歴史的な意義を自ら分析して考察する力や、疑問に対して理解を深めようとする姿勢が身についたと感じています。



史学科 3年
(大阪信愛学院高等学校出身)
西村 美香 さん



その他のフィールドワーク

PICKUP:02 | 日帰り史跡見学会



- 奈良大学と奈良県山添村との連携事業の古文書調査
- ゼミ主催の史跡・博物館などの見学会(京都国立博物館・淡路島・ならまちなど)

県内外を歩き、現物資料から学ぶ 学外史跡見学会へ

史学科の学びは常に現物主義、現場主義。本物に触れ、五感を通じて過去と対話することは、歴史研究の初歩であり、また奥義でもあります。身近な奈良の長谷寺、布留社(石上神宮)をはじめ、関ヶ原古戦場跡、越前朝倉氏一乗谷遺跡など、県外のさまざまな史跡にもバスに乗って訪ね、現物史料に触れていく学生たち。学外での史跡見学会は楽しく、多くの学びを得る充実した一日となります。